



園だより

令和2年7月1日
板橋区立こぶし保育園

梅雨の合間の晴れた日には夏を思わせる暑い日となり、この夏も猛暑になるようです。この自粛期間に室内にこもり、体力がなくなっています。晴れた日には、熱中症に気を付けながら、園外活動を行い、体力もつけてきています。そして、汗をかいたらシャワーや身体を拭き気持ち良く生活していけるように心掛けていきたいと思ひます。

『緊急事態宣言』が解除され1ヵ月が経ちました。6月は『緩やかな解除』でしたが、7月からは通常の生活が戻ってきます。温暖化の問題や、新型コロナウイルスの問題は改めて人間が考えていかなければならない時であり、次の世代にどんな地球をのこすかを問うていく時でしょう。7月より、スーパーのレジ袋が有料化になります。1つ1つ環境に優しい取り組みを意識しながら、子どもたちが大人になった時に生きていることに喜びを感じられる社会になるよう願ひます。

三井貴子

7月の予定

- | | | |
|---------------|--------------|---------|
| 9 (木) 5歳児太鼓活動 | 15 (水) 0歳児健診 | 幼児書き方教室 |
| 18 (土) 避難訓練 | 23 (木) 休園日 | 海の日 |
| 24 (金) 休園日 | スポーツの日 | |

お知らせ

毎年、7月第1土曜日には夕涼み会を行っていましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、行いません。8月後半には、保育の中で『夕涼み会ごっこ』として行っていきたいと思ひます。

もうすぐ・たなばた

子ども達は現在、七夕製作をしています。製作した作品を持ち帰ります。今年も沢山の笹が保育園の敷地で育ちました。玄関に笹を置いて置きますので、ご自由に持ち帰って子どもと一緒に飾り付けをして楽しんで下さい。

実施日・7月6日(月)

運営委員会について

『緊急事態宣言』を受け、1回目の運営委員会は中止になりました。

今年度、4月中旬より、緊急事態宣言が発令され、各クラス、新しい運営委員が決まらないうまま、現在に至っております。今年度に限り、2回目の運営委員会は開催する予定ですが、今年度に限り、新しく各クラス、運営委員をお願いせず、現状のままで進めていきます。令和3年度より、新たに運営委員をお願い致します。

プールについて

国より示されている『保育所等における新型コロナウイルス対応にかかる Q&A』においては、『プールの水を介した感染のリスクは低いとされており、プール活動を行う際はプールのサイズに合わせて一度に活動する人数を調節をする等密集状況を作らないこと』とされていますが、公立保育園のプールでは広さが限られ、活動人数の分散を図ってもなお密集状況となり、他園児と楽しみながら安全な距離を保って活動することは難しい状況にあります。その為、令和2年度の板橋区立保育園においてはプールの使用を見送らせていただきます。

子どものマスクの着用について

暑い夏がやってきましたが、今年は新型コロナウイルスの感染予防のためにマスクは欠かせないものですが、熱中症を起こしやすくなるとリスクもあります。

子どもはご飯を食べて遊んで疲れて眠るという生活リズムの中で成長していきます。自粛生活で運動機能や体力が落ちている可能性があります。暑い夏に体が慣れないうちに、マスク着用で遊んだり、運動したりすれば、脱水を起こしたり、熱中症になることが十分に考えられます。少しずつ暑さに慣れていくことも大切、無理はさせないようにしていくことを大切にしていきたいと思います。

『乳幼児突然症候群（SIDS）の増加がまず懸念されます』とされています。乳幼児突然症候群は健康に見えていた乳幼児が何の兆候もないまま睡眠中に突然死する病気であり、多くは、1歳までの乳児で発症するがそれ以降の報告もあり、2歳までは注意が必要とされています。そして言葉を伝えることがまだ未熟な2歳未満の子どもは何か苦しさを生じても伝えられず周囲の大人もマスクのために表情が読み取りにくくなる。3歳以上でもマスク着用による熱中症が懸念されています。また、『夏になり一日中マスクをしていたらそれ自体が不衛生になりかぶれなども増える。表情が見えないため、健康観察がしにくい。気分が悪いなどの体調不良を言葉で訴えにくい幼児にマスクを強制することは、望ましくない』との見解。まとめると2歳未満のマスクは危険、3歳以上も強要はしないことが大切。『子ども間での感染は起こりにくく、また起きても無症状か軽傷で済んでいる』という点からすれば、子どもの場合は柔軟な対応が必要となります。（日本小児科医会より）

異年齢交流について

核家族世帯が殆どであり、一人っ子や兄弟が少ない家庭が増えています。昔は年下の子どもの世話をすることは当たり前でした。お兄さん、お姉さんの『あそび』は充実しており、それを見ている年下の子どもにとって年上の子どもは『憧れの存在』であり、『いつか自分たちもそうなるんだ』という気持ちの芽生えを大切にしていきたいと思います。競争を余儀なくされている人間関係の中で、相手を思いやる心、自分を認められることで育つ自己肯定感を育む等、沢山の年齢の違う子どもたちが在籍している保育園だからこそできる事もあります。現在も異年齢の関りは大切にしていますが、幼児クラスは異年齢交流日を決め7月より月2度回、保育の中で行います。詳細は後日お伝えします。